

令和5年度 授業改善推進プラン 技術・家庭科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・実習題材を精選し、ICT機器を活用しながら学習の基礎・基本の定着を図った。週に1時間の授業での達成度は十分でない面もあるが、3年間の指導計画で学力の定着を目指し継続する。 ・1年生の製図において、昨年度より練習時間を多く設けた。その結果、キャビネット図、等角図、第三角法による正投影図など正確にかくことができる生徒が増えた。 ・達成感の高い作品を教材としたことで、多くの生徒が家庭で作品を使用してくれている。今後も達成感をもてる作品作りを継続することが重要と考える。

技術・家庭科の課題と具体的な改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・試験等で知識を問う設問に関する正答率が低く、知識の定着が十分にできてない。授業中で知識定着へ向けた取り組みの少なさが課題であると考え。 ・衣食住の生活のうち、衣と食の分野では、作品製作や調理などの実習における理解と技能に個人差が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で言葉や仕組みを扱ったあと、反復練習をする時間を取り入れる。前回の授業の振り返りなどを導入時に取り入れ、紙に言葉で書く活動を取り入れる。定着が十分でない生徒へは授業外での支援を行う。 ・基礎的な知識については、小テストを行い、定着を図る。技能面では手順に関する資料や動画などを共有し、繰り返し練習できるようにする。また、状況に合わせて、再テストや補習などを行う。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱った内容が社会の中でどのように関係しているのかを考え、まとめる活動を行った。記述からは、思考を働かせている様子がうかがえるが、生徒によって差があり達成度に関差が大きい。 ・製作する作品を、より使い心地が良くなるよう機能やデザインを工夫し、自分の発想を表現できる力をつけさせる。 ・作品作りにおいて、製作する上での問題点を考え、問題を解決しようとする判断力を身につけさせる。自分の生活をよりよくしようとする意欲を今後も持続させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間で各々がまとめた資料を発表し合い共有する活動を取り入れる。個人で出てこなかったような考えを聞き、取り入れ、自身のまとめを再度考えることで思考をより深めさせる。 ・生徒の工夫や発想のよいところを見つけ、褒めるよう心がける。自分の発想をどのように表現したらよいか、必要に応じてアドバイスを行う。 ・見本となる作品例や段階標本を示すことにより、自身の作品の進捗や精度を確認しながら、創意工夫できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の内容を学んだうえで、社会や環境をよりよくすることを考える活動を授業で取り組んでいる。しかし、授業での取り組みを踏まえたことを考えられていない生徒がおり、教科の学習が態度等に十分に反映されていない。 ・作品製作や実習は意欲的に取り組む生徒が多いが、座学の授業では、興味関心に個人差があり主体的な取り組みにもばらつきが見られる。 ・作品製作では、苦手意識をもつ生徒に対して、意欲的に取り組むことが出来るような働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の知識・理解、思考・判断・表現の段階の学習が不十分であることが考えられる。知識技能の定着、思考・判断の育成をより充実させ、態度の反映につながるよう授業展開をする。 ・座学の授業では、実物投影機・パワーポイント・プロジェクター・電子黒板等のICT機器や、一人一台端末などを活用し、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような教材の工夫をする。また、めあてを明確にすることにより、生徒が目標をもって授業に臨めるようにする。 ・作品製作では、授業毎に自己評価を行う。小さな目標を段階的に設定することにより、達成感を味わいながら進められるようにする。